

機関番号：17102  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20520689  
 研究課題名（和文） 近代日本の地方都市における支配構造と地域政治に関する社会地理学的研究  
 研究課題名（英文） Social Geography of Urban Politics and Power Relations in Modern Japan. — Case Study of Medium-size Cities—.  
 研究代表者  
 遠城 明雄（ONJO AKIO）  
 九州大学・大学院人文科学研究院・教授  
 研究者番号：00243866

研究成果の概要（和文）：本研究は、門司市(福岡県)、下関市(山口県)、仙台市(宮城県)を主なフィールドにして、建造環境(インフラ)の建設過程と各種選挙における地縁集団、実業団体、政党、民衆などの対立と協同の諸関係を検討することによって、近代日本の地方都市における支配構造と地域政治の具体的諸相とその変容を明らかにしようとした。その結果、各集団はその社会経済的位置に規定され、また各都市は中央政府との関係に影響を受けつつ、都市空間の生産をめぐって対立と協同を繰り返しながら、再編成されていく過程が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This research aims to clarify the characteristic and transformation of urban politics and power relations in modern Japanese medium-size local cities: Moji, Shimonoseki, Sendai. I focused on the relationships among various local subjects (local businessmen, parties, the people and so on) around the process of construction of build environment and the election campaign. These subjects cooperated each other to attract capital and other assets from central government, but at the same time, turned against each other. This study clarified the contradictory process of production of urban space and its relations to subjects in modern Japanese cities.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会地理学

科研費の分科・細目：人文地理学・政治・社会地理学

キーワード：地域政治、空間の生産、建造環境、場所

## 1. 研究開始当初の背景

(1)日本近代史や人文地理学などの分野において、近年、近代都市史研究の発展は目覚ましいものがあるが、複数の論者が指摘するように、その多くは東京や大阪など六大都市の研究が中心であり、六大都市と農村社会をつなぐ位置にある地方都市の研究蓄積はまだ

不足していた。

(2)近代都市の政治・社会構造を解明するうえで、建造環境の生産をめぐる諸主体間の政治・社会・経済過程という視点の重要性は、複数の論者によって指摘されてきたが、実際の事例研究は少なかった。

(3)代表者は、これまでの研究で、都市民衆運動の地理的基盤や行政による都市社会政策の展開などの検討を通して、近代都市の政治・社会構造の一端を明らかにしてきたが、その過程で、都市の政治構造や選挙地盤の変動、中央と地方の政治的結合と建造環境の生産過程の関係を研究する必要性を認識した。

## 2. 研究の目的

(1)「空間の社会的生産」という社会地理学的視点から、近代日本の地方都市の政治・社会構造の特徴を明らかにし、「後発先進国」日本の都市化と地域編成の特徴を考察する。

(2)特に、1910年代から1930年代の地方都市における支配および権力構造と地域政治の変容過程を、「建造環境」の生産をめぐる諸主体間の対立と調整の動態分析を通して、明らかにする。とりわけ、市会、県会、衆議院など各種選挙における地域名望家、既成政党、実業家、民衆など諸主体の行動および言説の分析と、建造環境の生産が都市社会にもたらした利害対立の構図およびその背景の検討を行う。主なフィールドとして、門司市(福岡県)、下関市(山口県)、仙台市(宮城県)の3ヶ所を取り上げる。

(3)具体的な経験研究に「建造環境論」を導入することによって、その可能性と問題点を明らかにし、近年、人文・社会科学で関心を集めてきた「空間の社会的生産」論の精緻化を図る。

## 3. 研究の方法

(1)基礎資料として、図書館や文書館などにおいて、各地で発刊されていた新聞記事の検索とコピーを実施する。また議会議事録やその他の行政資料を収集する。以上の基礎資料に基づき、地方都市の政治・社会構造を再構成する。

(2)日本近代都市史や行財政史、およびアングロサクソン圏やフランス語圏の都市社会地理学研究における理論研究について、その批判的再検討を行う。

(3)全国レベルの資料や統計を活用して、フィールドの地方都市の全国における位置づけを行う。

## 4. 研究成果

各都市において得られた知見に関しては、以下の通りである。

(1)下関市について、明治中後期から大正期にかけての都市の支配構造と地域政治の状況に関して、以下の知見が得られた。

①市会・県会・衆議院の各選挙の動向を検討した結果、明治30年代前半において、町(町総代)および町の集合体が、候補者の推薦と予選、および選挙運動の基盤となっていたことが明らかとなった。

②日露戦争以後、港湾修築事業を中心とした都市開発が、市政の課題となったことによって、町を単位とした地域支配構造にゆらぎが生じ始め、市の有力者を網羅した政治団体が結成されたことが明らかとなった。ただし、この時期ではまだ町を基盤とした支配構造も機能しており、また有力者による団体の結合も脆弱で、短期間で解散している。したがって、建造環境の建設を契機とした諸主体の再編成は、まだ過渡期であったといえる。

③明治末期に港湾修築事業をめぐる、民衆によって反対運動が行われ、市政を揺るがす暴動に発展したことが明らかとなった。多くの市会議員が辞職したため、選挙となり、その結果、内務省が決定していた港湾事業は中止となった。「民衆騒擾期」における地方都市における民衆の行動とその背景について、新たな事例を提出することができた。

④大正中期中に下関市で発刊された雑誌『日本之閩門』を分析することで、町総代がまだ政治・行政的な力を維持していること、それが市の発展にとって足かせとなっているという認識を多くの識者が共有していることなどが明らかとなった。

⑤下関市の予選団体と政治団体の再編成に関する知見は、先行研究に類似の事例もあって、日本の都市社会の変動を示す現象として理解可能である。また地方都市においても民衆が活発な運動を展開し、それが市政に大きな影響を及ぼしていたことが明らかとなった。今後、当該期の民衆の動向をさらに明らかにすることで、それが国民国家の形成と変容に与えた意味を考察することが重要である。

(2)新興港湾都市・門司市について、明治中後期にかけての都市の支配構造と地域政治について、以下の知見が得られた。

①市会・県会・衆議院の各選挙の動向を検討した結果、町や町の集合体などの地縁的組織よりも、石炭仲仕組の組長といった地域有力者が選挙において大きな役割を演じていたことが明らかとなった。この現象は、下関市などと異なり、明治以降、都市形成の進んだ門司市に特徴的な政治構造と言え、横浜市などと共通性があることがわかった。

②都市の政治構造の流動性が高いため、各

種選挙において激しい選挙戦が戦われ、市政が安定しなかったことが明らかとなった。

③都市の支配構造の一端を明らかにするため、伝染病、特にコレラの流行に着目して市の対応や有力者層の言説を分析した。その結果、伝染病流行が建造環境の建設を促進する機運を高めたものの、財政上の問題や中央政府とのつながりの弱さから、実現には多くの時間がかかったこと、伝染病の恐怖を介して、労働者層を規律化する意識が醸成されたこと、天皇の巡幸に際して都市空間の改造が進められたことなどが明らかとなった。伝染病と都市空間・社会の再編成に関しては、神戸市や京都市などの先行研究があるが、本研究は特に労働者層をめぐる言説と施策に着目したことで、具体的な状況を明らかにすることができたと考えられる。

今後は、こうした視点から国家と民衆との相互規範的な関係性をより具体的に明らかにすることが可能であると思われる。

(3) 仙台市について、明治中後期の都市の支配構造と地域政治の状況について、以下の知見が得られた。

①市会議員選挙をめぐる諸集団の動きを分析することで、仙台市における地域集団、政党、実業家の協力・対立関係の構造とその変化を、地域内部の社会関係や階層関係と、中央の政治状況との外的な関係という二つの側面から明らかにすることができた。

②特に、市会議員選挙に際して、有力者の予選団体が活動しているが、他の市の事例とは異なり、予選を通して地域政治の政党化が進展したことが明らかとなった。

(4) その他、長崎市についても資料調査を行い、港湾修築問題をめぐって市会内部に対立が発生したこと、それが地縁集団や実業団体を核としてきた都市の支配秩序を揺るがす契機となったことなどが明らかとなった。

以上の事例研究から、各都市内部の政治・社会構造、経済基盤や社会構成・階層構造などを分析すると同時に、こうした都市自体の特質に規定されながら、各都市が開発をめぐる全国的な都市間競争のなかで、どういった戦術を取ろうとしていたかを考察することが、この時期の日本の都市社会と地域構造の特徴を考察するうえで重要であることが確認できた。

(5) アングロサクソン圏とフランス語圏における社会地理学および都市研究の動向について検討を行い、以下の知見を得ることができた。

①フランス語圏の社会地理学に関して、「空間の領有」という問題設定から、特に都市社会運動や建造環境の「遺産化」という問題について、理論と経験研究が行われていることが明らかとなった。社会運動については、本研究の考察にも利用したほか、関連する仏語論文の翻訳を「空間・社会・地理思想」14号に発表した。

②アングロサクソン圏の都市研究に関して、建造環境と諸主体の関係の議論として、特にジェントリフィケーションをめぐる近年の動向について検討を行った。その結果、諸集団の建造環境に対する働きかけをめぐる、資本流通の規定力をどのように評価するかが、いまだに重要な論点として議論されていることが明らかとなった。本研究では、こうした研究動向を踏まえながらも、むしろ諸集団の動態に注目して、建造環境の建設過程を分析することで、主体と構造という論点の精緻化を図ろうとした。なお、この成果については、書評(2本)が「季刊地理学」63-2に掲載予定である。

また「身体と都市」あるいは「政治的身体」に関わる論点が、精神分析やフェミニズム研究のみならず、広い関心を集めていることが明らかとなった。この問題は「空間スケールの生産」という問題とも関係してくるが、日本の地理学会においてほとんど検討されていない視点であり、今後発展させていく必要があると考えられる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 遠城明雄、地方都市の政治状況に関する研究ノート—1889年～1912年の仙台市一、史淵、査読無、148輯、**2011**、69-100
- ② 遠城明雄、近代都市と伝染病—門司港におけるコレラ流行—、史淵、査読無、147輯、**2010**、199-238

[学会発表] (計4件)

- ① 遠城明雄、近代都市と伝染病、福岡地理学会、2011年1月30日、福岡大学セミナーハウス
- ② 遠城明雄、第一次世界大戦後の日本の地方都市における地域住民組織、日本地理学会、2009年3月29日、帝京大学
- ③ ONJO AKIO, Local festival and the construction of local community in contemporary Japan, 5<sup>th</sup> East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, 2008.12.15, Seoul University, Korea

- ④ 遠城明雄、地域住民組織の変動からみた1920年代の日本の都市社会、東北地理学会・歴史地理学会、2008年5月17日、宮城大学

〔図書〕(計4件)

- ① 有馬学編、遠城明雄、日比野利信ほか：近代日本の企業家と政治、吉川弘文館、**2009、12-39、190-221**
- ② 金沢大学文学部地理学研究室編、遠城明雄ほか：自然・社会・ひと、古今書院、**2009、132-147**
- ③ 竹中克行ほか編、遠城明雄ほか：人文地理学、ミネルヴァ書房、**2009、29-45**
- ④ 平岡昭利編、遠城明雄ほか：日本の地域変貌、海青社、**2008、286-291**

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/geograh/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

遠城 明雄 (ONJO AKIO)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：00243866

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

日比野 利信 (HIBINO TOSHINOBU)

北九州市立自然史・歴史博物館・学芸員

研究者番号：90372234